すずか民報
第135号
2012年4月

日本共産党鈴鹿市議団
市議会の報告

実現しました
住宅リフォームへの助成
工事費の１割、上限５万円

石田秀三 市議

鈴鹿市の２０１２年度予算に、「緊急経済対策住宅リフォーム促進事業費」３０００万円が計上されました。この事業は、市民が居住する住宅のリフォームを、市内業者に発注した場合に、市が工事費の１割を助成するものです。１件10万円以上で行なう自宅の修繕、補修のための工事、壁紙の張替えや畳替えなども対象になります。

石田秀三議員は10年12月議会、11年３月議会の２度にわたり、全国に広がる住宅リフォーム助成制度を紹介し、経済不況にあえぐ市内中小業者や職人さんの仕事つくりのために、鈴鹿市でも実施することを提案してきましたが、やっと新年度予算で実現となりました。

実施方法は、４月に広報などで市民に事業内容をお知らせし、５月に申し込み期間を設けて受け付け、助成を決定してから着工、工事完成後に支払いとなります。リフォームを予定、検討している多くの市民が、この助成制度を利用することが期待されます。

中学校給食センター 14年完成に向けてスタート

市内10中学校で完全給食を行なうための給食センターの建設がスタートします。センターの建設場所は稲生４丁目で、12年度は用地費、基本・実施設計、また給食を受け入れる各学校の配膳室の設計などに、２億７千万円余が予算化されました。

末松市長は３月議会での施政方針の中で、給食開始時期を「遅くとも平成27年４月」としましたが、共産党市議団は、「今年入学する生徒が卒業までに食べられるように」開始時期を前倒しすることを求めています。

準備が進む給食センター予定地（稲生4丁目）

小学校給食、自校方式はなくしません

鈴鹿市の小学校での給食は30校中、19校が給食室で調理する「自校方式」、11校が給食室のない「センター方式」となっています。以前の市の計画の中では、この自校方式19校を順次センター化していくとされていました。

今回の中学校給食センターの規模の議論の中でも、小学校のセンター化も入れるかどうかが検討されましたが、結論として新給食センターは中学生と教職員合わせて６４００食の規模とされました。そして自校方式の学校はこれまでどおりとされ、「センター化」計画はなくなりました。今後は、老朽化する各校の給食室の計画的な改築が課題となります。

介護保険料、34％もの大幅値上げ

介護保険を担当する鈴鹿亀山地区広域連合が、２０１２年度から３年間の第５期保険料（65歳以上）を決定しました。新保険料（基準額・第６段階）は第４期より34％も高い６４５２０円（月額５３７７円）になります。これは介護保険が始まった２０００年の保険料月額２７７１円の約２倍です。この間、高齢者の年金は減りつづけ、税の控除もけずられて生活は苦しくなっています。介護保険料の値上げは、これに追い討ちをかけるものです。

月５０００円以下におさえる努力を

３月議会で森川ヤスエ議員は、値上げの要因として①国が負担すべき費用25％をへらして高齢者の負担に上乗せしている、②市が行なうべき介護予防事業の費用を介護保険に入れている、③払えない人の分を保険料に算定している、をあげ、市として財政支援することで保険料を月５０００円以下にする努力を求めました。

介護保険料の所得段階別比較表（月額・円）

所得段階	所得要件（年金収入）	第4期保険料	第5期保険料
1	生活保護・福祉年金	1,603	2,151
2	世帯非課税・80万円以下	1,603	2,151
3	世帯非課税・120万円以下	3,005	3,388
4	世帯非課税	3,005	4,033
5	世帯課税・80万円以下	3,326	4,463
6	世帯課税・本人非課税	4,008	5,377
7	本人課税・125万円未満	4,328	5,807
8	125万円以上	5,010	6,721
9	190万円以上	5,610	7,528
10	300万円以上	6,011	8,066
11	600万円以上	7,013	9,410
12	1000万円以上	8,015	10,754

普通教室に空調設備つけて

森川ヤスエ議員は、小中学校の夏の暑さ、冬の寒さ対策について質問しました。鈴鹿市は普通教室への空調設置はしない、扇風機も付けないとしています。しかし、隣の亀山市は全校に空調設置を進めていて、すでに半数の教室に付けられています。また、鈴鹿市でも実際はPTAの寄付で扇風機が8小学校、6中学校に付けられ、西部の小中学校にはストーブが入っています。

森川議員は、市教委の認識は一般社会の常識から外れていると指摘し、子どもたちの学習にふさわしい環境の基準が文科省で決められているが、冬は10度以下、夏は28度以上にならないような温度管理ができているのかと聞きました。市教委は、来年度に各学校で温度をはかって調査すると答弁し、森川議員は基準を超えるような所にはきちんと対策することを求めました。

森川ヤスエ 市議

滞納税の一括引き落としは、生活おびやかす

最近、給与や年金が入金された市民の口座から、通知なしで滞納税を一括して差し押さえて引き落とされた例が多くなっています。口座に入ったお金は「生活費」であり、「資産」ではありません。生活ができなくなるほどの差し押さえは、生存権の侵害であり、行き過ぎです。

石田議員は、地方税法に「生活を著しく窮迫させる恐れがあるときは、滞納処分をしてはいけない」、また国税徴収法でも給与や年金は「差し押さえ禁止財産」とされていることを示し、問答無用の引き落としはやめ、本人と面談や電話で直接相談することを求めました。

鈴鹿市の借金は950億円以上

一般会計より多い下水道の借金

鈴鹿市の借金（市債）はいくらある?と聞くと、一般会計での市債残高465億円との答えが返ってきます。しかし、本当の借金額は、これに下水道会計の市債残高485億円を足した950億円になります。さらに、表に出てこないゴミ処理場PFIの建設費、土地開発公社の塩漬け土地の借入金なども加わります。

一方、毎年の借金返済と利子払い（公債費）も、一般会計では55億円ですが、下水道の32億円を足すと年88億円になります。

このうち、本来国が出すべき金を市が立て替えている借金（臨時財政対策債）残高が253億円、その返済と利子払いが年15億円もあり、市財政を圧迫しています。

市は「財政がきびしい」からと市民サービスを抑えていますが、下水道の借金を減らすことや、国の責任を問うことの努力が大事です。

鈴鹿市の市債残高と公債費

2012年度末予定額	借金(市債残高)	元利返済(公債費)
普通債①	211億円	40億円
臨時財政対策債②	254億円	15億円
一般会計①＋②	465億円	55億円
下水道会計③	485億円	32億円
合計①＋②＋③	950億円	87億円

市民に差をつける補助金

新エネルギー普及のために、「太陽光発電」に2万円の市補助金が出されています。昨年は344人から申請がありましたが、抽選で60人になり8割もの市民が受けられませんでした。

また、「クリーンエネルギー自動車」への補助金2万円も、404人申請のうち200人しか当たらず、半数の市民が外れました。12年度は、「ホンダ車」購入の市民には補助金を他車の倍の4万円にするとしています。このこと自体、市民に差をつけることになりますが、これも190人分しか予算を組まず、ホンダ車を買っても補助金なしの市民がたくさん出ると予想されます。

新規事業の「住宅リフォーム助成」も、予算の3000万円を超えると「抽選」として、外れる市民が出ます。共産党市議団は、申し込みの数に見合った予算を確保して、市民に公平な補助をすることを求めています。

増える耕作放棄地の対策を

鈴鹿市の農地4690ヘクタールのうち、約1割の490ヘクタールが「耕作放棄地」になっていて、増え続けています。そのうち「作付けしていない耕地」が268ヘクタール、「荒廃した耕作放棄地」が222ヘクタール、さらに「休耕している耕地」も同じほどあります。

石田議員は、「休耕地」から「放棄地」さらに「荒廃地」へと進む流れを食い止める対策が必要ではないかと質問しました。

今の対策は、「3年以上荒れた耕地を復元し作付けする」場合に補助金が出るが、何とか草を生やさないように毎年管理していても、何も支援がない。「荒廃地」をふやさないために、集落単位やボランティアでの取り組みを応援する体制をつくることを求めました。

草の茂る耕作放棄地

生活相談など
お気軽に連絡下さい

石田 秀三 ☎371-0423
鈴鹿市伊船町２７５１

森川ヤスエ ☎384-3740
鈴鹿市矢橋3丁目10-34